

## ボランティアの養成・研修事業

### 「ボランティア養成セミナー」

#### 1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期日

令和3年6月19日(土)～6月20日(日)【1泊2日】

##### (2) 参加者

- ①参加対象 高校生以上
- ②参加人数 40名(応募67名 キャンセル27名)
- ③参加者の内訳 高校生5名、大学生22名、社会人13名(職員3名)
- ④登録者数 40名

#### 3. 企画運営のポイント

- ①ボランティア活動を行う上で、必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画した。
- ②法人ボランティアとして活動してきた先輩学生ボランティアが、自らの体験談を発表することで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせ、前向きに取り組んでいこうとする態度を養わせた。
- ③新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とした。

#### 4. 日程

	午前	午後	夜
6月19日 (土)	開会行事 講義「青少年教育施設の現状と運営」 講師：国立赤城青少年交流の家 次長 鈴木 昭博	講義「青少年教育」 講師：共愛学園前橋国際大学 教授 奥田 雄一郎 演習「ボランティア活動の技術」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 福岡 公平・反町 峻	説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」 「赤城のボランティア活動」 講師：法人ボランティア 吉池 涼香 齋藤 萌華
6月20日 (日)	講義「救命救急法」 講師：国立赤城青少年交流の家 職員 鈴木 和子 講義「ボランティア活動の意義」 講師：群馬県社会福祉協議会 主事 山岸 拓矢	説明「法人ボランティア登録制」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 反町 峻・福岡 公平	

## 5. 主な活動内容



青少年教育



ボランティア活動の技術



赤城のボランティア活動



救命救急法



ボランティア活動の意義



自然体験活動の特質

## 6. 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足35名(88%)、やや満足5名(12%)

### (2) 参加者の声

- ・体験的な学習を子どもたちに経験させることの意義について、学ぶことができました。
- ・ボランティア事業に参加するのが今回初めてで不安だったのですが、ボランティアをする上での心構えを学べてよかった。
- ・コロナの関係で、大学外で学ぶ機会が少なくなる一方で、このような対面でボランティアの取り組む姿勢を学ぶことができました。貴重な体験ができて良かったです。
- ・とても楽しかったです！年齢の異なる方たちと関わることができて、刺激になりました。また、ボランティアをしたいという気持ちが強くなりました。

### (3) 成果

- ①新型コロナウイルス感染症のために、日程変更、キャンセルが多数あったが、高校生が6名参加、大学生は7大学からであり、多様な所属、年齢間の参加があった。また、日程変更によりキャンセルが多数あったが、群馬県内の大学からの応募が19名あり、群馬県内での広報の成果が感じられた。
- ②。事前に資料をPDFでメール送信や、事前、事後のアンケートをGoogleフォームで作成、共有するなど、事務作業の効率化を図った。

### (4) 課題

- ①Googleフォーム、メールでの連絡が一般化されていない現状もあり、参加者との連絡等で手間が増えてしまう場面もあったため、ICTの活用場面と、実際に記入してもらう場面の使い分けを精査していく必要がある。
- ②群馬県内の学生の参加をより増やしていくために、コロナ禍ではあるが、来年度に向けて、早期から県内大学へ広報計画を立てていきたい。

担当：反町 峻、福岡 公平